

勝コミュニティ・スクールだより10月臨時号

平成29年10月5日 福津市立勝浦小学校 TEL52-0364 Fax52-4210 文責 校長 太田剛
児童数 男子42名 女子45名 計87名

平成29年度全国学力・学習状況調査及び福岡県学力調査結果のお知らせ

本年度6年生を対象に行われた全国学力・学習状況調査（国語・算数 H29.4.18 実施）、及び5年生を対象とした福岡県学力調査（国語・算数 H29.6.20）の結果等についてお知らせします。

この調査結果は、児童の学力等の一面ではありますが、本校では学力調査を「学校及び家庭における児童の学習状況、学校における教職員の指導状況」を示すものと捉え、今後の指導に役立てたいと考えています。

1 全国学力・学習状況調査（6年生）の結果とその分析

① 全体的な傾向

国語A・算数Aは全国平均とほぼ同じでしたが、国語Bは全国平均よりやや上回っていて、算数Bは全国平均より下回っているという結果でした。

本校では、昨年度より「子ども一人一人の活用する力を育てる算数科授業づくり～子ども自身が問いを生み出す導入と全員で「問い」を解決する交流活動の工夫と自分の言葉で表現するまとめ活動を通して～」というテーマを設定し、校内研修で全教職員に授業提案を行いながら、算数科だけでなく他の教科へも実践化を図り、授業改善を行っています。

② 国語

国語の評価の観点は「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「言語に関すること」です。評価の観点ごとの正答率を分析すると、「話すこと・聞くこと」「書くこと」が、活用を問う問題では正答率が全国平均を上回っていましたが、基礎・基本を問う問題では正答率が全国平均をやや下回っていました。

③ 算数

算数の学習領域（学習内容）は、「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」です。基礎・基本を問う問題では、「量と測定」「数量関係」が全国平均をやや上回っていましたが、活用を問う問題では、すべての領域で全国平均を下回っていました。特に「数と計算」では基礎・基本を問う問題でも全国平均を下回っていました。

2 児童質問紙（6年生）の結果と

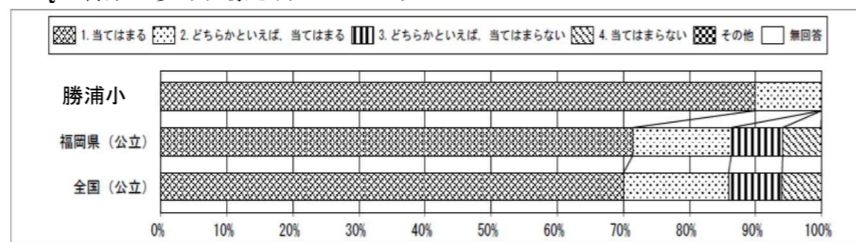
その分析

① 福津市の全ての学校で重視している項目

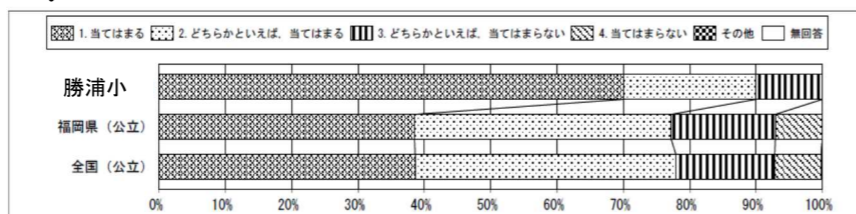
Q1～Q5は、福津市全体で重視している項目で、全ての学校で保護者にお知らせしています。

本校では、課題であった「将来の夢や目標を持っている」「自分にはよいところがある」という項目について、「(どちらかといえば)あて

Q1 将来の夢や目標を持っていますか？



Q2 自分にはよいところがあると思いますか？



はまる」と答えた児童が全国平均を上回っており、「夢を語り合える」学校づくりを推進してきた成果だと考えています。また、「学校のきまりを守っている」という児童は、100%に達し、本校児童の規範意識の高さを示しています。これは勝浦のもつ地域性や家庭での規範意識に対する指導、学校での「あいさつ」や「学習ルールの徹底」が効果を上げているものと思われます。このことは、学力調査で無回答率が非常に少なかったことにつながっています。

一方、家での学習時間や予習時間は、全国平均と比較して短く、十分であるとは言えません。これからは、予習や復習(宿題)の内容を検討しながら、家庭学習または時間外学習で子どもたちの自立した学習習慣が身に付くように、家庭と学校が協力していく必要があります。

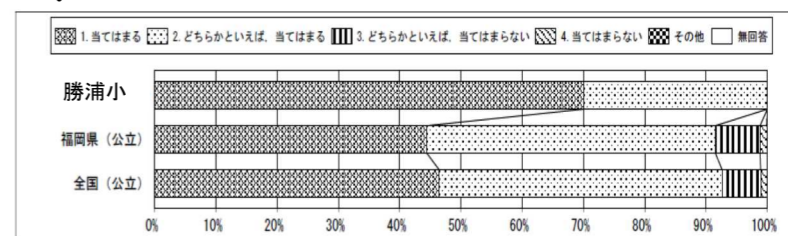
② 本校の特徴的な項目

Q6～Q9は、本校児童に顕著に表れている項目の一部です。

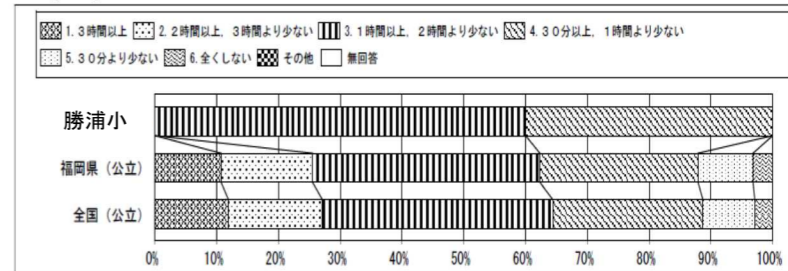
読書の時間は、全国平均と比較して短く、「学校の授業などで、自分の考えを説明したり、文章に書いたりすることが難しい」と感じている児童は、全国平均より多いようです。本に親しむ時間が少ないため、教科書以外から学ぶ言葉や表現が少なく、これが自分の考えを説明したり、文章に書いたりすることが難しいと感じている児童が多くなっている一つの原因だと考えられます。豊かな表現力を身に付けるためにも、読書や新聞を読むことを推奨していく必要があります。

Q8、Q9は、学級や先生のようにすを問うたものです。教室の外からはなかなか見ることができない児童の心や考えを知ることができます。回答からは、児童が学級という集団を通して達成感を味わっていること、教師の真剣で誠意ある指導に対して学ぶ喜びを感じていることがわかります。それは、本校の「個に応じた指導」に対する児童の声であると受け止めています。

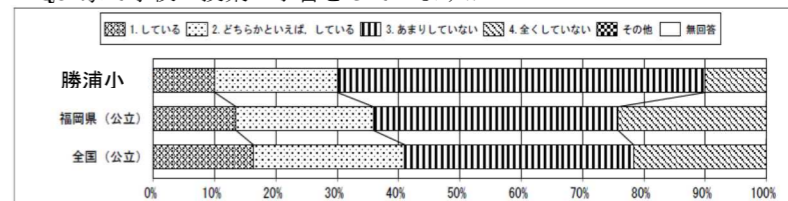
Q3 学校のきまりは守っていますか？



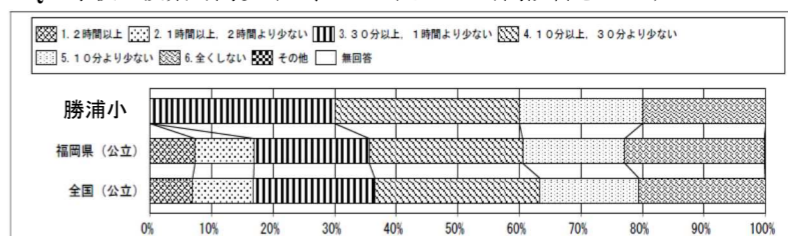
Q4 家でどのくらいの時間勉強をしますか？



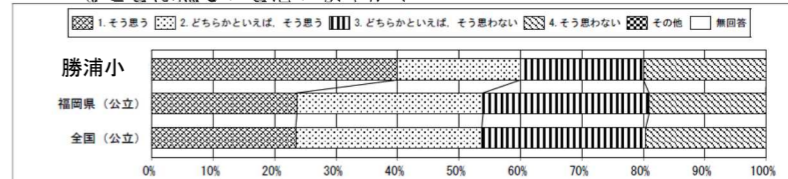
Q5 家で学校の授業の予習をしていますか？



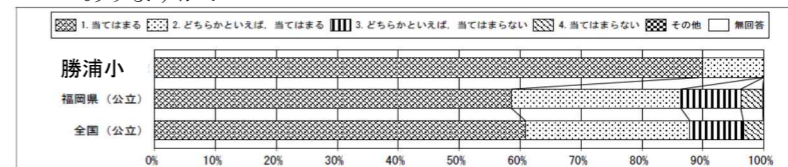
Q6 学校の授業時間以外に、どのくらいの時間読書をしますか？



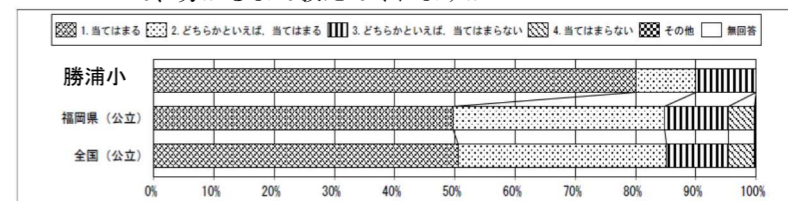
Q7 学校の授業などで、自分の考えを説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思いますか？



Q8 学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがありますか？



Q9 先生は、授業やテストで間違えたところや理解してないところについて、分かるまで教えてくれますか？



3 福岡県学力調査（5年生）の結果とその分析

① 全体的な傾向

国語 A については、福岡県平均と比較してやや下回っており、国語 B に至っては、下回っているという結果でした。また、算数 A については、福岡県平均と比較してやや上回っており、算数 B については、ほぼ同じという結果でした。

② 国語

国語の評価の観点、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「言語に関すること」です。これらの観点の中で、特に「書くこと」についての正答率が低く、日常的に「書く活動（文章に書いて表現する活動）」「活用問題への重点的な取組」を図っていかなければなりません。

③ 算数

算数の評価の観点、「数学的な考え方」「数量や図形についての技能」「数量や図形についての知識・理解」です。「知識・理解」が県平均と比較してやや上回っていましたが、他はほぼ同じでした。最近3年間で、どの評価の観点も上昇傾向にあります。

4 今後の取組

5, 6年生の調査結果を見てみると、6年生で課題となるのは、国語では基礎・基本を問う問題での「話すこと・聞くこと」「書くこと」であり、算数では「数学的な考え方」でした。また、5年生で課題となるのは、国語では「書くこと」「話すこと・聞くこと」「読むこと」でした。

6年生は算数が苦手であり、5年生は国語が苦手であるというように、学年それぞれで傾向の違いが見られます。

いずれにしても、“前年度までに落とさず学習ができているか”“学習が積み重ねられているか”ということが大変重要であり、そういう意味では低学年・中学年で着実な学習の積み重ねが大切だといえます。このことから今後の取組においては、5, 6年生の当該学年の学習はもとより、1～4年生までの学習内容の確実な定着を図ることが重要であると考えています。

① 学力テストにおける児童の“つまずき”の徹底的な分析

5, 6年生とも学力テストの詳細な結果が学校に報告されています。この結果を教職員全員で徹底的に分析・共有し、2学期以降教材の作成や指導に生かします。特に児童それぞれに“さらに伸ばしたい力”“不足している力”に目を向け、個別指導を行います。

② 授業の内容の改善

□ 「書くこと」を取り入れた授業

「書くこと」を意識的に取り入れた授業や課題を設定します。「書くこと」は、学力の定着に欠かせず、「自分の考えを文章として表現させる」場面を授業の中で意識的につくります。また、週末課題等で「短作文」等に取り組ませます。

□ 「話すこと・聞くこと」を取り入れた授業

「話すこと」「聞くこと」を“交流活動”として、授業に意識的に取り入れます。「相手の目的や意図

を汲み取り、それを受けて自分の考えを整理し、相手に伝わるように話すこと」が十分ではないので、特に5年生以下の学年で、この授業改善を行います。

□ 「読むこと」を取り入れた授業、読書活動の充実

授業では、音読することによって味わえるリズムや響きを大切にしながら、言葉の意味だけでなく、相互関係、心情や場面の描写を捉えることができるような「読むこと」の指導を授業に取り入れていきます。また、読書活動の充実をはかっていきます。

□ 「数学的な考え方」を取り入れた授業

日常の事象と関連付けた具体的な場面を設定した上で、算数的活動の中で意味を理解させ、活用させることで基礎・基本の定着を図る授業を行います。また、日頃から、答えだけを求めるのではなく、きちんと算数用語（「等しい」「和、差、積、商」など）を使って説明する授業を行っていきます。

□ 「問い」を大切に授業

児童の「なぜ?」「おかしいな?」「調べてみよう」「おもしろそうだ」という“問い”を生み出す授業改善を行い、児童の興味関心や問題解決の意欲を大切にします。

③ 全学年で統一的な指導を行う

□ 学習規律の再徹底

チャイム席、あいさつやまとめの言葉、姿勢、学習用具の準備、提出物の期限内提出等、授業や朝活動（脳トレタイム）で全校的に確認し、徹底した取組とします。御家庭でも学習用具や提出物についての確認を徹底させてください。

□ 学習集団づくりの推進

本校は、過去、特別活動の研修に取り組み、学級集団づくりに力点を置いてきました。その成果は、表ページの Q8 “学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことはありますか?” の結果に反映されています。今一度、学級会や全校集会、学級集会への取組を推進します。

□ 家庭学習や読書の充実

表ページ Q4Q5 から分かるように、家庭学習の時間や内容にやや課題が見られます。今後は、「書くこと」「予習」等の宿題や家庭学習を推進するとともに、読書や新聞を読むことを推奨し、休みの日や長期休業中にも一定時間自律的に学習できるよう、週末課題を工夫します。御家庭でも毎日一定時間（学年×10分+α）の学習時間を確保させる等、御協力をお願いします。

【補足説明】

○国語 A・算数 A

・基礎的・基本的知識・技能が定着しているかどうかを評価する問題

○国語 B・算数 B

・基礎的・基本的知識・技能を活用して問題を解決する力をはかる問題